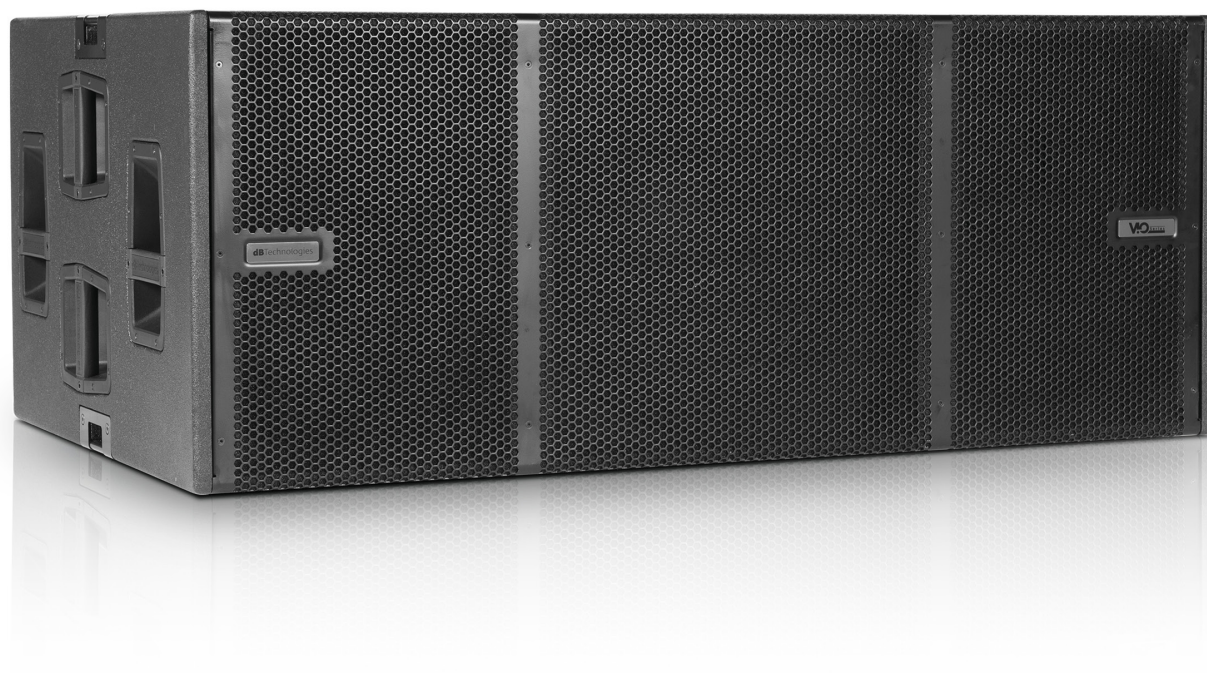


VIO S318







アクティブ サブウーファー

取扱説明書















安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

 警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	
 電源プラグをコンセントから抜く	<p>万一、異常が起きたら 煙が出た、変なにおいや音がするときは 機器の内部に異物や水などが入ったときは この機器を落とした、カバーを破損したときは すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災/感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）に修理をご依頼ください。 万一、煙が出ていたり、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。 すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。 煙が出なくなるのを確認して、販売店まで修理をご依頼下さい。</p>
 指示	<p>電源プラグにほこりをためない 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災/感電の原因となります。 定期的（年 1 回くらい）に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。</p>
 禁止	<p>電源コードを傷つけない 電源コードの上に重い物を載せたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きしない 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない コードが傷んだまま使用すると火災/感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら（芯線の露出、断線など）、販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）に交換をご依頼ください。</p>
	<p>付属の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。</p>
	<p>交流100ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。 表示された電源電圧（交流 100 ボルト）以外の電圧で使用しないでください。 また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。 火災/感電の原因となります。</p>
	<p>この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し（20 cm以上）離して設置する隙間を空けないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p>
	<p>この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p>
 禁止	<p>機器の上に花瓶や水などが入った容器を置かない 内部に水が入ると火災/感電の原因となります。</p>
	<p>この機器のカバーは絶対に外さない カバーを外す、または改造すると、火災/感電の原因となります。 内部の点検 / 修理は販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご依頼ください。</p>
 分解禁止	<p>この機器を改造しない 火災/感電の原因となります。</p>

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 指示	設置の際は、資格や経験を持った人(専門業者)に必ず依頼する 天井や壁掛け設置、床などに設置の際は、設置場所の強度を確保する 使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。 天井/壁/柱/床などに設置する場合は、設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。
	注意 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
 電源プラグをコンセントから抜く	移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す コードが傷つき、火災/感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。
 指示	旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となることがあります。
 指示	オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明にしたがって接続する また、接続は指定のコードを使用する 電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となる場合があります。
 指示	この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。
 指示	この機器には、付属の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。
 禁止	ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない 湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たる場所に置かない 火災/感電やけがの原因となる場合があります。
 禁止	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災/感電の原因となる場合があります。 必ずプラグを持って抜いてください。
 禁止	濡れた手で電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となる場合があります。
 注意	5年に1度は、機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センター(巻末に記載)にご相談ください。 内部にほこりがたまったら、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となる場合があります。 特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。

目次

安全にお使いいただくために.....	2
目次.....	4
商標および著作権に関して.....	4
はじめに.....	4
本製品の構成.....	4
別売りアクセサリ.....	4
本書の表記.....	5
ユーザー登録について.....	5
アフターサービス.....	5
設置上の注意.....	5
結露について.....	5
製品のお手入れ.....	5
本機の概要.....	6
組み合わせと最適化.....	6
dBTechnologies Composerソフトウェアについて.....	6
設置方法.....	6
エンドファイヤーとカーディオイドの構成 (平置きまたは段積み).....	7
フライバー DRK-210を使用してVIO L210の床置設置.....	7
専用台車による本機の運搬.....	8
各部の名称.....	9
電源パネル.....	9
コントロールパネル.....	9
電源および外部機器との接続.....	11
電源と電源リンクの接続.....	11
オーディオ信号の接続.....	11
RDNetの接続.....	11
適合ケーブル.....	12
トラブルシューティング.....	12
dBTechnologies Composerのダウンロード.....	12
アクセサリの取扱説明書ダウンロード先.....	12
F/Wアップデート	
(USB Burner Manager ソフトウェア).....	12
リモート機器の取扱説明書ダウンロード先.....	13
dBTechnologies Networkについて.....	13
dBTechnologies Networkのダウンロード先.....	13
仕様.....	13
一般.....	14
寸法図.....	14

商標および著作権に関して

- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- Neutrikは、Neutrik AGの登録商標です。また、powerCONおよびTRUE1は、Neutrik AGの商標です。
- DigiproはAEB INDUSTRIALE SRLの商標です。
- dBTechnologiesはA.E.B Industriale SRLのそれぞれの国における商標または登録商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

はじめに

このたびは、dBTechnologies VIO S318をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいた上で、未永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。

また取扱説明書は、TASCAMのウェブサイト (<https://tascam.jp/jp/>) からダウンロードすることができます。

本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。

なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

- 本体 (VIO S318)..... × 1
- Neutrik社製 powerCON TRUE1 電源コード..... × 1
- 取扱説明書(本書、保証書付き)..... × 1

別売りアクセサリ

輸送や本体設置のために下記の別売りアクセサリが、ご使用になります。

- DRK-210 : フライバー (吊り下げフレーム : 最大荷重750kg)
- DO-VIOS318 : トローリー (運搬用台車 : 最大4台まで積載可)
- TC-VIOS2 : 運搬用レインカバー (DO-VIOS318用)
- DAC-70 : XLR-XLR オーディオケーブル (70cm)
- DCK 27T : ケーブルセット
 Neutrik社製 powerCON TRUE1 LINKケーブル(70cm) × 2
 XLR-XLR オーディオケーブル (70cm) × 2
- DPTC-70L : 電源リンク用ケーブル
 Neutrik社製 powerCON TRUE1 LINKケーブル (70 cm)
- DPTC-160L : 電源リンク用ケーブル
 Neutrik社製 powerCON TRUE1 LINKケーブル (160 cm)
- DPTC-1000MJP : メイン電源用コード
 Neutrik社製 powerCON TRUE1 電源コード (10m)
- RDC-45F : RJ45-XLR(メス) 変換ケーブル (6cm)
- RDC-45M : RJ45-XLR(オス) 変換ケーブル (6cm)
- RJ45-RJ45-150 : RJ45-RJ45リンクケーブル (150cm)
- RJ45-RJ45-75 : RJ45-RJ45リンクケーブル (75cm)
- リモート機器(ラインアレイ時の制御用)
 RDNet Control2 : 2系統/最大制御数 64台(1系統/32台)
 RDNet Control8 : 8系統/最大制御数 256台(1系統/32台)

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のボタン／端子などを「POWER」のように太字で表記します。
- 本機のディスプレイに表示される文字を“MAIN”のように“_”を使って表記します。

ヒント

本機を、このように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

ユーザー登録について

TASCAMのウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願いいたします。[<https://tascam.jp/jp/login>]

アフターサービス

- この製品には、保証書が添付（巻末に記載）されています。大切に保管してください。万が一販売店印の捺印やご購入日の記載が無い場合は、無料修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどご購入店／ご購入日が確認できるものを一緒に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、保証書に記載の無料修理規定によりティアック修理センター（巻末に記載）が無料修理致します。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理については、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）までご連絡ください。
- 修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責については、ご容赦ください。
 - 型名、型番（VIO S318）
 - 製造番号（Serial No.）
 - 故障の症状（できるだけ詳しく）
 - お買い上げ年月日
 - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先については、巻末をご参照ください。
- 本機を廃棄する場合に必要となる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

設置上の注意

- 本機の動作保証温度は、摂氏-5度～50度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質低下の原因、または故障の原因となります。
 - 暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
 - 極端に温度が低い場所
 - 湿気が多い場所や風通しが悪い場所。
- 放熱をよくするために、本機の上には物を置かないでください。
- 熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。
- 本機の近くに大型トランスを持つ機器がある場合にハム（うなり）を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- テレビやラジオの近くで本機を動作させると、テレビ画面に色むらが出る、またはラジオからの雑音が出る場合があります。この場合は、本機を遠ざけて使用してください。
- 携帯電話などの無線機器を本機の近くで使用すると、着信時や発進時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、それらの機器を本機から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置してから電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。化学雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷める、または色落ちさせる原因となります。

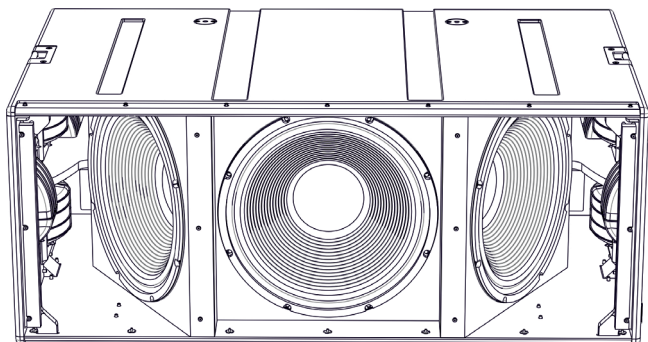
本機の概要

dBTechnologies VIO S318は、Digipro G3アンプ(クラスD)を搭載したアクティブ サブウーファーです。

最適な音響効果が得られるようパスレフ方式による3個の18インチウーファー(4インチボイスコイル採用)にセミホーンを組み合わせ、近距離でもバランスの良い低域を再生します。

DSPによって制御されるDIGIPRO G3アンプを3台搭載し、カーディオイドやエンドファイヤーといった様々な組み合わせで、再生音を自在にカスタマイズ可能です。また、VIO L210(アクティブラインアレイモジュール)と組み合わせる場合、多くの構成や設置に対応可能です。

- 本機は、クラスDのDigipro G3アンプを3台搭載し、RMS出力で[合計2700W]を出力し、電圧自動切替機能を備えたスイッチング電源により、冷却ファンを排除し、静かな動作を実現しています。
- 最大音圧レベル(SPL): 143 dB (1 m)
- 高品質な18インチウーファーユニットを3個搭載。
- 本体に取付ポイント(2箇所)を装備し、別売りの吊り下げフレーム(フライバー DRK-210)を使って、最大4台までのVIO L210を本機の上に設置することができます。
- DSP制御によるPolarity切替とディレイ、クロスオーバー周波数調整によって、最も適切な設定(エンドファイヤー、カーディオイド)にチューニングして、あらゆる状況で、最適な指向性を得ることができます。



組み合わせと最適化

本機を単体で使用する場合、無指向性のサブウーファーとして使用できます。

この場合、低い周波数のときは無指向性で、周波数が高くなるにつれて指向性を持ちます。

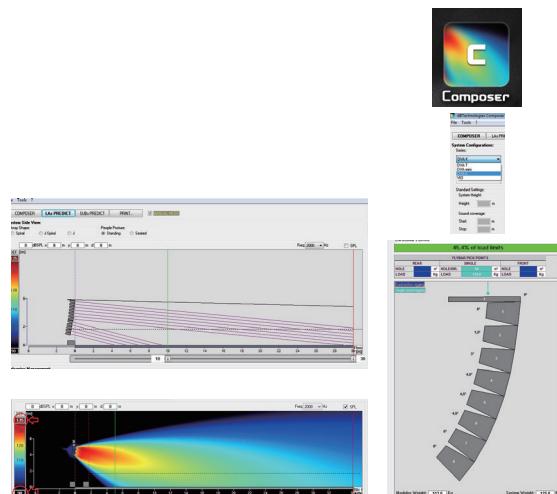
そのため、ラインアレイや他のサブウーファーと組み合わせる場合、サブウーファー単体やアレイ全体の音響特性を最適化するために、一連のコントロールが必要になります。ユーザーが本機の操作部から設定可能な操作は、クロスオーバー周波数、ディレイ(0~9.9ms)、Polarity切替(0°または180°)です。

また、様々な構成で使用する場合(例えば、カーディオイド、エンドファイヤー、ラインアレイなど)については、dBTechnologies社から無料配布されるdBTechnologies Composerソフトウェアを併用されることをお勧めします。

dBTechnologies Composerソフトウェアについて

VIO シリーズをお使いになる場合に、無料のdBTechnologies Composerソフトウェアを併用されることをお勧めします。

このソフトウェアを使用すると、狙ったカバレッジを実現するためのラインアレイ構成のモジュール角度の解析や、選択したエリアに合わせたラインアレイ構成のシステム設定が行えます。また、吊り下げフレーム(フライバー)の静的動作をシミュレートすることで効率的に、ラインアレイモジュール設置の安全性を確認できます。



(dBTechnologies Composerソフトウェアイメージ図)

dBTechnologies Composerソフトウェアのダウンロードは、12ページの「dBTechnologies Composerのダウンロード」を参照してください。

設置方法

電源を入れる前に、必ず本機の **Subwoofer Attenuation** ボリュームのレベルが **0 dB** ポジションであることを確認してください。その後、**AUTO-RANGE MAINS INPUT** 端子に Neutrik 社製 powerCON TRUE 1 電源コードが正しく接続され、電源供給が行われているか確認してください。(各端子類や操作部については9ページの「各部の名称」を参照してください。)

注意

ここで紹介する設置方法以外で、絶対に設置しないでください。指示を守らない場合、人がけがをしたり、機器が壊れたりする原因となります。

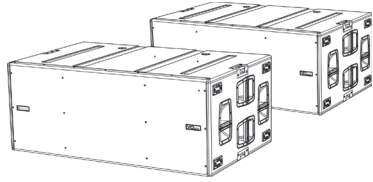
- 設置は、資格や経験を持った人(専門業者)が必ず行い、使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。
- 設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。(設置部分の強度が不足している場合、落下や転倒して、人や動物・機器に損害の原因になります。)
- 誤った方法で本体のハンドルや取付ネジ穴を使用して、本機器を設置したり、吊るさないでください。
- 別売りアクセサリを安全にお使い頂くために、使用前など定期的にしっかりと固定・組み立てられているかチェックしてください。(弊社は、不適切なアクセサリの使用、または追加による損傷に対していかなる責任も負いません。)
- スピーカーは、必ず安定した場所に確実に設置してください。
- 安全上の理由により、適切な固定方法を用いることなくスピーカーを重ねて設置しないでください。

エンドファイヤーとカーディオイドの構成 (平置きまたは段積み)

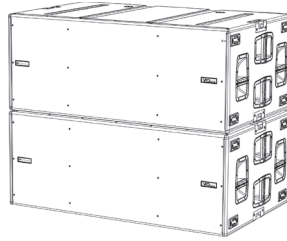
VIO S318は、エンドファイヤーとカーディオイドの構成で、床置設置することができます。

- dBTechnologies Composerソフトウェアを使用すると、常に正しい補正值(ディレイやPolarity)が選択できます。

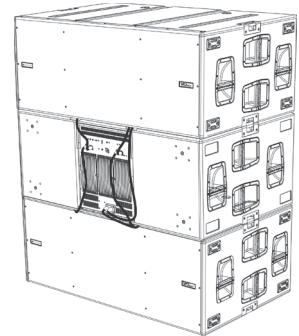
平置きエンドファイヤー 設置例



段積みカーディオイド 設置例 1



段積みカーディオイド 設置例 2



注意

安定した設置のために、平らな床に設置してください。また、本機を段積み設置する場合、安全のためにストラップで固定してください。

フライバー DRK-210を使用してVIO L210の床置設置

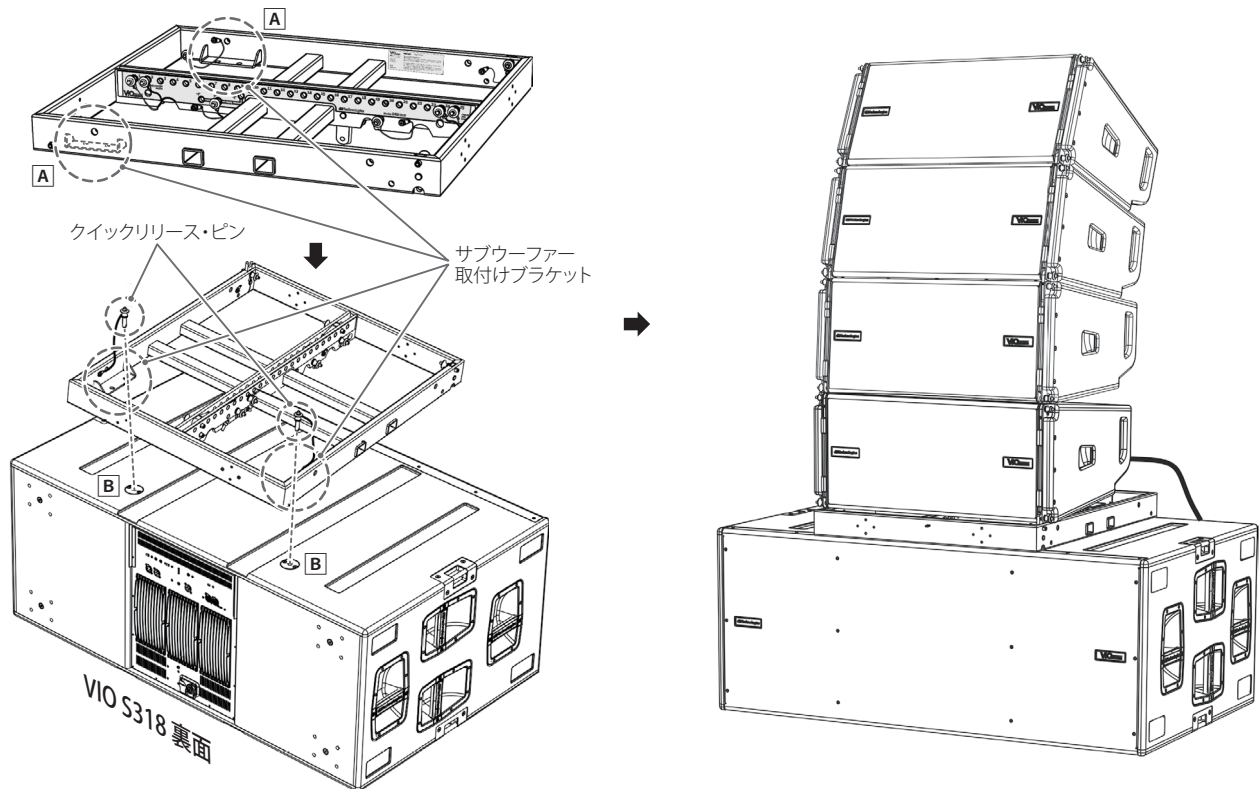
本機の上に別売りの吊り下げフレーム(フライバー DRK-210)を使って、最大4台までのVIO L210を床置設置することができます。

注意

吊り下げフレームの詳細は、アクセサリーの取扱説明書を指定ページからダウンロードして参照してください。(→ 12ページ「アクセサリーの取扱説明書ダウンロード先」)

1. 吊り下げフレームのサブウーファー取付けブラケット(下図 ㊦)の穴を本機上面の取付け穴(下図 ㊧)に合わせて、下図を参考にクイックリリース・ピンで、吊り下げフレームを固定します。
2. 吊り下げフレームにVIO L210を取り付けます。
取付け方法は、VIO L210の取扱説明書を参考に取付けてください。

フライバー DRK-210の取付け例



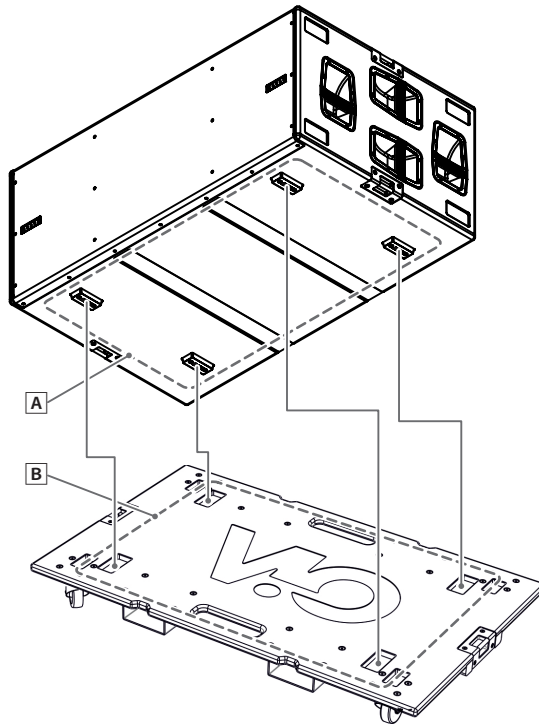
注意

本機にVIO L210と吊り下げフレームの連結が完了後、全てのクイックリリース・ピンが、正しく差し込まれて確実に、固定されているか確認してください。

専用台車による本機の運搬

別売りの専用台車(トローリー DO-VIOS318)を使用すると、本機を3台まで運搬可能です。

3. 本機の本機部分(下図 図A)を台車の指定場所(下図 図B)に合わせて、静かに載せます。



4. 下図は、本機を3台まで積み上げた状態です。

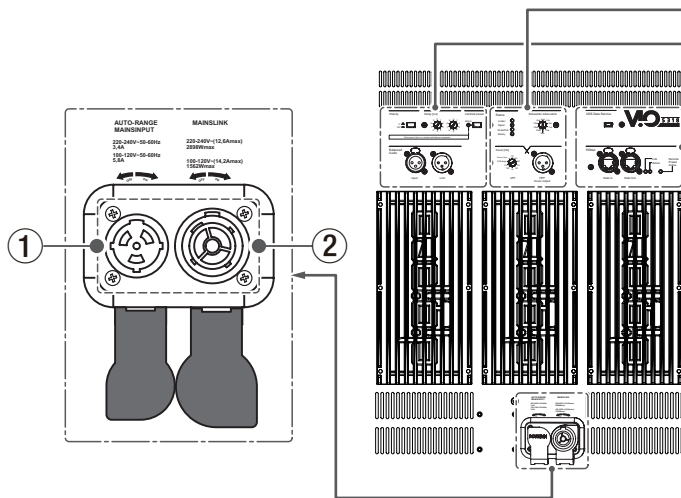


注意

本機を段積みして運搬する場合、安全のためにストラップで台車に固定してください。

各部の名称

電源パネル



① AUTO-RENGE MAINS INPUT

AC電源 端子 (Neutrik社製 powerCON TRUE1 端子 ブルー) 付属のNeutrik社製 powerCON TRUE1 電源コードを接続します。

注意

- ケーブルの接続や取り外しは、必ず電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。

② MAINS LINK

電源リンク端子 (Neutrik社製 powerCON TRUE1 端子 グレー) 他のサブウーファーやアクティブスピーカーなどに電源を供給する端子で、AUTO-RENGE MAINS INPUT (①)端子とは、並列接続になっています。

ご使用時は、別売りの専用Neutrik 社製 powerCON TRUE1 LINKケーブルをお使いください。

MAINS LINK(電源Link 端子)の最大供給電流は、下記の表に記述してある許容範囲まで、スピーカーを接続することができます。

MAINS LINK端子の最大供給電流 (AC100-120V時)
14.2 A(max)/1562 W(max)

注意

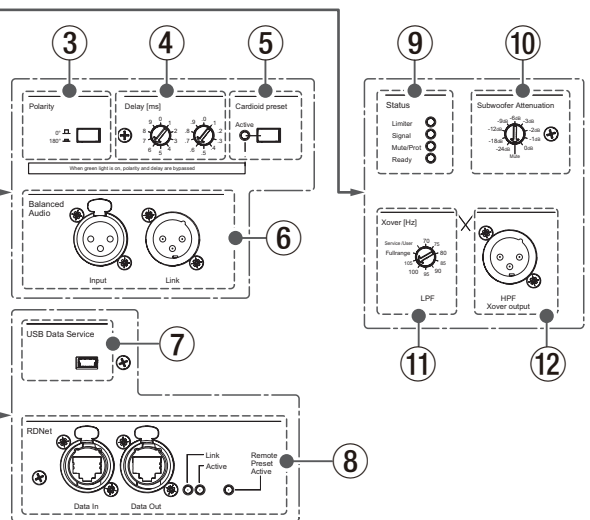
- 最大供給電流を超えての設置は、機器または人に損害を与える恐れがあります。
- 上記以外の方法で、他のアクティブスピーカーなどに電源供給を絶対に行わないでください。その場合、感電および機器を破壊する恐れがあります。
- Neutrik社製のケーブルについては、タスカム カスタマーサポート (巻末に記載) にご相談ください。

③ Polarity

Polarity(極性) スイッチ (OFF : 0° / ON : 180°)

本機の極性を0度、または180度反転する場合に選択するスイッチです。ラインアレイモジュール構成で極性を調整する際に使用します。

コントロールパネル



④ Delay [ms]

ディレイ調整

本機から再生される音のディレイ値を2つのロータリ エンコーダーで、[0~9.9] msの範囲で調整します。

- ロータリ エンコーダー : 左側[0~9] ms/
右側[0~0.9] ms

ディレイ値の設定は、例えばロータリ エンコーダーの左側を[5]に設定し、右側を[.5]に設定した場合、ディレイ値は[5.5] msになります。

また、エンドファイヤー構成時など強い指向性を持たせたい場合に2~3台のサブウーファーを同時に使うことにより、直接サブウーファー正面の広がる音を、変えることなく背面に回り込む低域を大幅に減衰することが可能です。

⑤ Cardioid preset

カーディオイド設定スイッチ

このスイッチをオンにすると、本機にプリセットされたカーディオイド設定で動作します。

動作中は、Active LEDが点灯します。

- Active LED (緑色)

Active LEDが点灯中は、プリセットされた設定が優先され、PolarityとDelayの設定は、使用されません。

⑥ Balanced Audio

- Input

XLRバランス入力

XLR端子によるアナログバランス入力端子で、ラインレベル(音源)のバランス信号入力が可能です。

注意

電源を入れる前には、音源側の機器の音量を最小にして下さい。

- Link

XLRバランス 出力

XLR端子によるアナログバランス出力端子で、本機を複数台設置する際にデジチェーン構成で出力するオーディオ信号の接続や他のアンプ内蔵スピーカーにオーディオ信号を出力する際に使用します。

⑦ USB Data Service

サービスデータ端子 (Mini USB Bタイプ)
本機のF/Wをアップデートする際、使用します。
ダウンロード方法は、12 ページの「F/W アップデート (USB Burner Manager ソフトウェア)」を参照してください。

⑧ RDNet (Ethernet RJ45 端子)

データネットワーク接続の入出力です。
ネットワーク接続でディレイ調整やPolarity設定、クロスオーバー設定、DSP制御を行うことが可能です。

- **Data in**
別売りのネットワークコントローラー **RDNet Control 2** または **Control 8** に接続します。
- **Data Out**
本機を複数台設置する際やラインアレイ構成で他のスピーカーにデジチェーン接続して使用します。
- **Link LED (黄色)**
RDNetネットワークがデバイスを認識した場合に点灯します。
- **Active LED (緑色)**
RDNetネットワーク上でデータの通信を行っている際、点滅します。
- **Remote Active Preset LED (緑色)**
本機がRDNet ネットワーク上で、制御 (リモートコントロール) されている場合に点灯します。

RDNetネットワークの使用の詳細は、13 ページの「リモート機器の取扱説明書ダウンロード先」ページの「リモート機器の取扱説明書ダウンロード先」を参照してください。

⑨ スタータス表示 LED

- **Limiter LED (赤色)**
入力信号の歪み音や他の不具合で内部リミッターが作動した場合に点滅します。
これは、アンプ回路が信号の歪みを防ぎ、ユニットが過負荷になるのを防ぎます。

注意

Limiter LEDが連続して点灯した状態は、入力信号の歪み音を伴う、過度の負荷をかかっている状態を示しています。そのままの状態、長時間連続使用しないでください。その場合、機器が壊れたりする原因となります。

- **Signal LED (緑色)**
オーディオ信号が入力されている時に点滅します。
その他の不具合で停止した場合は、消灯します。
- **Mute/Prot LED (黄色)**
電源投入時に数秒間点灯し、正常な状態で動作している時は消灯しています。
アンプ内部の温度をモニターし、オーバーヒートの保護回路が作動した場合、**Mute/Prot LED (黄色)**が点滅することで知らせます。適正な内部温度になってから、音量と全ての機能は元通りに復帰し、消灯します。
その他の不具合で停止した場合は、点灯します。
- **Ready LED (緑色)**
正常に状態で動作している時に点灯します。
その他の不具合で停止した場合は、消灯します。

⑩ Subwoofer Attenuation

入力感度調整ロータリ スイッチ
アンプ部に入力する信号の感度を調整します。
電源を投入する前は必ず、**0 dB**に設定してください。

⑪ Xover [Hz]

クロスオーバー 設定 (70 Hz~105 Hz~フルレンジ)
HPF Xover output (⑫) 端子に接続された中高域用スピーカーとのクロスオーバー周波数 (9 種類) を選択できます。

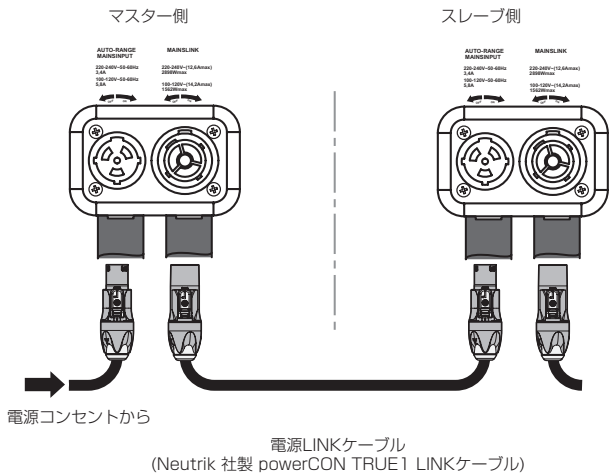
⑫ HPF Xover output

ハイパスフィルター付きクロスオーバー出力
Xover [Hz] (⑪) で設定したクロスオーバー周波数を **VIO L210** や他のスピーカーにフィルタリングして出力 (XLR バランス) します。

電源および外部機器との接続

本機は、デジチェーン接続でき、電源とオーディオ信号を1台目のスピーカー(マスター側)から2台目以降のスピーカー(スレーブ側)に供給することができます。

電源と電源リンクの接続



電源の接続

付属のNeutrik社製 powerCON TRUE1 電源コードを**AUTO-RANGE MAINS INPUT**(AC電源 端子)に接続し、時計回りに端子を回転させてロックしてください。ロックされると電源が入ります。また、電源を落とす場合は、逆の手順で取り外してください。

注意

電源コードは、付属のNeutrik社製 powerCON TRUE1 電源コードをご使用ください。それ以外のケーブルを使用すると感電およびスピーカーの動作に影響する場合があります。

電源リンクの接続

Neutrik 社製 powerCON TRUE1 LINK 端子は、マスター側からスレーブ側に専用電源LINKケーブルを使って、デジチェーン接続が可能です。

本機で電源リンクの接続を行うには、まずNeutrik社製 powerCON TRUE1 電源コードを使って、マスター側の本機をコンセントに接続した後、別売りのNeutrik社製 powerCON TRUE1 LINKケーブルを使って、マスター側の**MAINS LINK**(電源Link 端子)とスレーブ側の**AUTORENGEMAINS INPUT**(AC電源 端子)に接続します。

この接続を繰り返して、マスター側の**MAINS LINK**(電源Link 端子)の上側に記載された最大供給電流に達するまでスピーカーを接続することが可能です。

注意

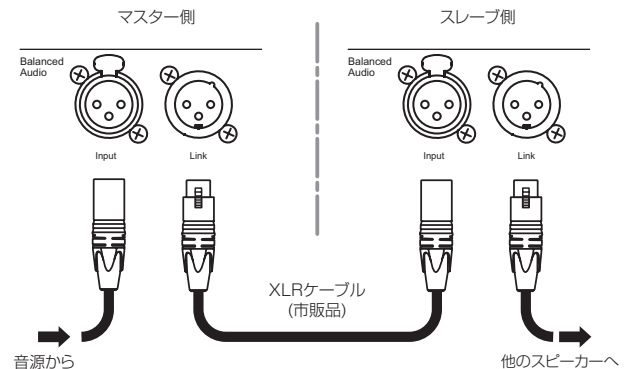
- 濡れた手または、機器や電源コードが濡れた状態で、絶対に電源コードの接続や取り外しをしないでください。感電および機器を破損する恐れがあります。
- ケーブルの接続や取り外しは、必ず電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。

オーディオ信号の接続

同一音源を2台以上のスピーカーに接続する場合、マスター側からスレーブ側へ送出することができます。

この接続を行うには、まず音源機器からマスター側のバランス入力(**Balanced Audio Input** 端子)に接続した後、バランスXLRケーブル(市販品)を使ってマスター側のバランス出力(**Balanced Audio Link** 端子)とスレーブ側のバランス入力(**Balanced Audio Input** 端子)に接続します。

この接続を繰り返すことで、以降のスピーカーを接続することができます。スピーカー配置に沿った接続が可能です。



注意

- 電源を入れる前には、音源側の機器の音量を最小にして下さい。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。

RDNetの接続

本機をリモート操作をする場合は、別売りのネットワークコントローラー (**RDNet Control 2**や**RDNet Control 8**)を使用して、制御したいスピーカーの**Data In**端子(Ethernet RJ45端子)にコントローラーからのLANケーブル(市販品)を接続します。

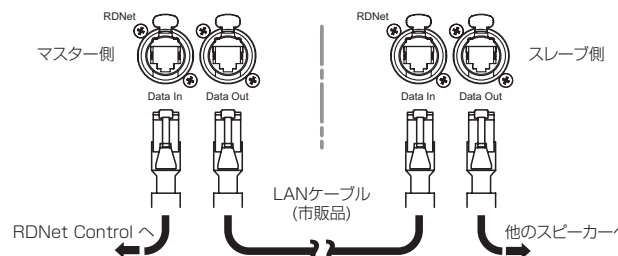
RDNetで複数機を制御する場合、マスター側の**Data Out**端子からスレーブ側の**Data In**端子にLANケーブル(市販品)で接続します。

この接続を繰り返すことで、接続されたスピーカーを制御することができます。

同様に複数のラインアレイ構成がある場合、制御できるスピーカーの最大数は下記となります。

- **RDNet Control 2** : 1ch/32台×2ch 最大64台
- **RDNet Control 8** : 1ch/32台×8ch 最大256台

RDNetネットワーク上に接続した機器が認識された場合、**Link LED**が点灯します。



注意

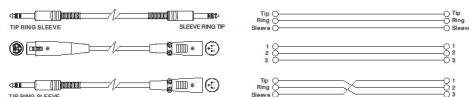
本機をネットワーク接続で制御をする場合、入力感度調整/DSP等の設定は、ネットワークでの設定が優先されます。(スピーカー単体での設定は、使用されません。)

RDNetネットワークの使用の詳細は、15 ページの「リモート機器の取扱説明書ダウンロード先」を参照してください。

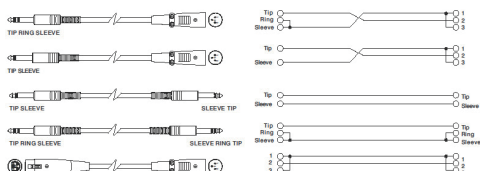
適合ケーブル

本機に適合するオーディオケーブルには、以下のタイプがあります。

バランスケーブル



アンバランスケーブル



注意

ケーブルの接続/取り外しは必ず、電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。

トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。それでも改善しないときは、お買い上げ店またはティアック修理センターにご連絡ください。

スピーカーの電源が入らない

- 電源機器をチェックして電源が供給されている事を確認してください。
- Neutrik社製 powerCON TRUE1 電源コードの端子が、しっかり接続されているか確認してください。

スピーカーの電源は入るが、音が出ない

- 入力端子が正しく接続されており、Neutrik社製 powerCON TRUE1 電源コードを使用されているか、確認してください。
- ケーブルに損傷がないか確認してください。
- 接続したミキサーなどの音源に電源が入っている状態で、オーディオ信号が出力されているか確認してください。
- 接続した機器や本機の入力感度調整ボリュームをチェックし、適正なボリューム位置に合わせてください。

スピーカーからの音が歪んでいる、または十分な音量でない

- ディレイやXover/Polarity スイッチがシステムの構成に適切な設定になっているか確認してください。
- 入力感度調整ボリューム位置を適切な値に合わせてください。
- 使用しているケーブルに損傷がないか確認してください。損傷している場合は、新しいケーブルと交換してください。(不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは、新しいものと交換してください。)

Mute/Prot LED (黄色)が点灯した場合

本機に不具合が発生した場合、Mute/Prot LED (黄色)が点灯し、音量がミュートします。

その場合、以下の項目をチェックしてください。

- 本機が正しく電源に接続されているか確認してください。
- 電源から適切な電圧が、供給されているか確認してください。
- アンプ部が過熱していないか確認してください。

これらのチェックをした後も、Mute/Prot LED (黄色)が消えない場合、タスカム カスタマーサポート(巻末に記載)にお問い合わせください。

dBTechnologies Composerのダウンロード

dBTechnologies社の下記ウェブサイトより、ソフトウェアをダウンロードできます。

(<http://www.dbtechnologies.com/es/downloads.aspx>)

ダウンロードページから Software & Controller の項目を選択して、下記ファイルをダウンロードしてください。

- セットアップファイル
"dBTechnologies_Composer_setup_x.x.x.zip"
- ソフトウェア取扱説明書
"Manual-dBTComposer_REVx-x.pdf"

解凍後、ソフトウェア取扱説明書の手順に従って操作してください。

アクセサリーの取扱説明書ダウンロード先

各アクセサリーの取扱説明書については、dBTechnologies社のウェブサイトのダウンロードページから、"Installation"の項目を開いて、上段の"Manuals"の列から対象となるアクセサリーのPDFファイルをダウンロードしてください。

- ダウンロードページ
<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

F/Wアップデート (USB Burner Manager ソフトウェア)

本機全ての機能を実際に使うためには、F/W を常に最新のものにしておくことをお勧めします。

定期的にdBTechnologiesのウェブサイトのダウンロードページをチェックしてください。F/W の更新が合った場合は、以下の手順でアップデートすることができます。

- ダウンロードページ
<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>
- 1. 上記のDownloadページから"Software & Controller"を開いて、[USB BURNER MANAGER]ソフトウェアをダウンロードし、表示される手順に従ってインストールしてください。
- 2. 上記のDownloadページから"VIO"を開いて、上段の"Firmware"の列と対象となる"VIO"機種の中から、最新のF/W (zip 形式)をダウンロードしてください。ダウンロード後、解凍してください。
- 3. 本機とパソコンをUSBケーブル(別売り社外品)で接続してください。
本機の通信用USB端子は、9 ページの「各部の名称」を参照してください。
- 4. [USB BURNER MANAGER]ソフトウェアを起動し、画面右上から、"File Opening..."を選択してください。
- 5. 先程ダウンロードしたF/Wを選択してください。(お使いのシステムに最適かチェックします。)
- 6. UPDATEをクリックし、アップデート作業をスタートしてください。

注意

F/Wアップデート後の電源投入で、保存した各種設定が失われる場合があります。

リモート機器の取扱説明書ダウンロード先

リモート機器の取扱説明書については、dBTechnologies社のウェブサイトのダウンロードページから、"Software & Controllerr"の項目を開いて、上段の"Manuals"の列から対象となる名前のPDFファイルをダウンロードしてください。

- 取扱説明書
 - RDNet Control 2
"RDNet CONTROL 2_cod420120189_Revx.x-MAN.pdf"
 - RDNet Control 8
"RDNET CONTROL8_cod420120183_Revx.pdf"
- ダウンロードページ
<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

dBTechnologies Networkについて

このdBTechnologies Networkはリモート操作する際に必要なソフトウェアです。

色々な構成時における本機をコントロールできます。

様々な状況におけるリアルタイム・モニターや、完全なリモート操作が可能で、例えばラインアレイ構成されたスピーカーと3台のサブウーファーの設定や、全システムを稼動中に異なるパラメーターに変更するなどの操作が可能になります。

さらに、本機の詳細な設定や本体の操作部では、行えない項目までコントロール可能です。

dBTechnologies Networkを使うことで、以下のパラメーターを設定することができます。

- 入力アッテネーター
- ディレイ
- Polarity
- カーディオイド設定
- Xover

dBTechnologies Networkのダウンロード先

dBTechnologies社のウェブサイトのダウンロードページから、"Software & Controllerr"の項目を開いて、上段の"Software"の列から対象となる名前の圧縮ファイル(zip形式)をダウンロードしてください。

- セットアップファイル
"db-Technologies-Network_x_x.zip"

"Software & Controllerr"の項目を開いて、上段の"Manuals"の列から対象となる名前のPDFファイルをダウンロードしてください。

- ソフトウェア取扱説明書
"dBTechnologies-Network_Section_A_REV.x.x.pdf"
"dBTechnologies-Network_Section_B_REV.x.x.pdf"
"dBTechnologies-Network_Section_C_REV.x.x.pdf"

セットアップファイルを解凍後、ソフトウェア取扱説明書の手順に従って操作してください。

- ダウンロードページ
<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

仕様

形式

アクティブ サブウーハー

スピーカーユニット

LF : 18インチ (4インチ ボイスコイル) ×3
指向性 : 無指向性

アンプ部

形式 : Digipro G3クラスD ×3
ピーク出力 : 5400 W
RMS出力 : 2700 W
冷却システム : 自然対流式

DSP部

コントローラー : DSP 64 bit
AD/DA処理 : 24 bit/96 kHz
リミッター : ピーク、RMS、サーマル
ディレイ調整 : [0~9.9] ms (0.1刻み)
プリセット : 入力感度調整スイッチ ×1
エンコーダースイッチ ×3 (Delay/Xover)
カーディオイドスイッチ
Polarity スイッチ
入力感度 : 最大0 dBu

音響データ

周波数特性
[-6 dB] : 39 Hz~(X-Over周波数に依存)
[-10 dB] : 35 Hz~(X-Over周波数に依存)
最大SPL : 143 dB (max)
クロスオーバー周波数
Low/High : 70 Hz~105 Hz +フルレンジ
(選択方式、24 dB/Octave)

外部入力

XLR端子 : バランスタイプ ×1
USB端子 : mini-Bタイプ ×1
LAN端子 : Ethernet RJ45タイプ ×1

外部出力

XLR端子 : バランスタイプ ×2
電源Link端子 : powerCON TRUE1 端子 ×1 (Neutrik社製)
(最大供給電流 : 14.2 A/1562 W)
LAN端子 : Ethernet RJ45タイプ ×1

一般

電源

電圧 : AC 100V~240 V(自動切替式)、50/60Hz
電源端子 : Neutrik社製 powerCON TRUE1 端子

注意

日本国内においては、AC100Vのみ動作保証となります。
(それ以外の電圧で、使用しないでください。)

消費電流

AC 100 V-120 V時 : 13.6 A

外形寸法

幅 x 高さ x 奥行き (突起部を含まず)
1300 mm x 520 mm x 800 mm

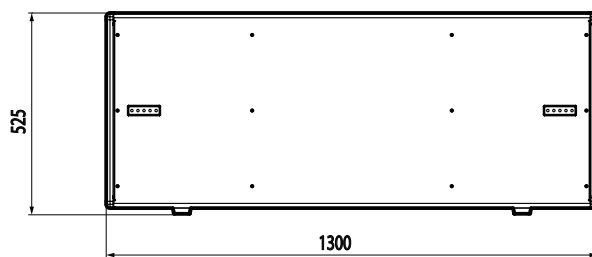
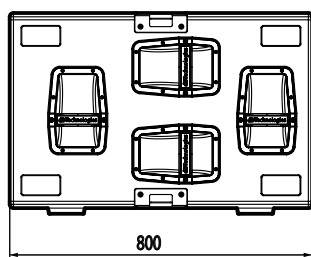
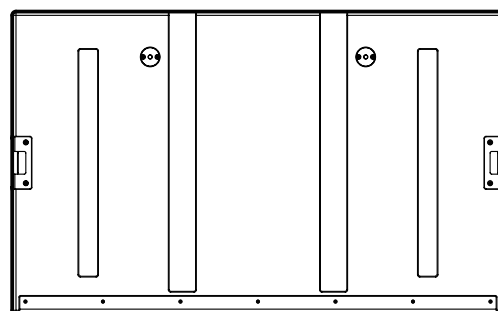
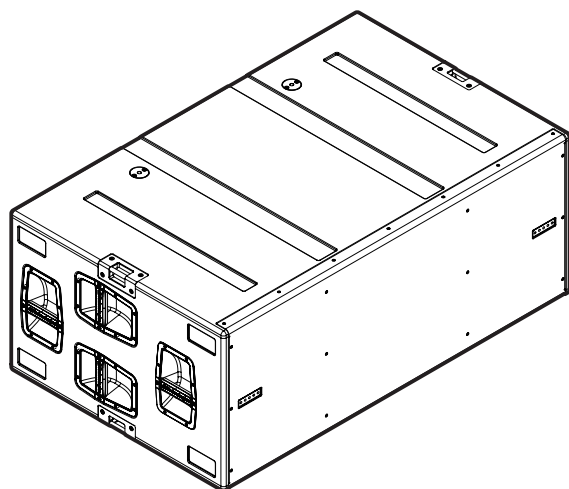
質量

103.9 kg

動作温度

-5 ~ +50°C

寸法図



- 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
- 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。



無料修理規定(持ち込み修理)

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、ティアック修理センターが無料修理致します。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、ティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前にティアック修理センターにお問い合わせください。
無償修理の対象は、お客さまが日本国内において購入された日本国内向け当社製品に限定されます。
3. ご転居、ご贈答品などでお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、ティアック修理センターにご連絡ください。
4. 次の場合には、保証期間内でも有償修理となります。
 - (1)ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 - (2)お買い上げ後の輸送/移動/落下などによる故障および損傷
 - (3)火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
 - (4)接続しているほかの機器に起因する故障および損傷
 - (5)業務上の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷

(6)メンテナンス

(7)本書の提示がない場合

(8)本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名(印)の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合

5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
These warranty provisions in Japanese are valid only in Japan.
6. 本書は再発行致しませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

- ※ この保証書は、本書に明示した期間/条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって保証書を発行しているもの(保証責任者)、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、ティアック修理センターにお問い合わせください。



ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47



0570-000-809

市内通話料でOK ナビダイヤル 一般電話/公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

受付時間は、10:00～12:00 / 13:00～17:00 です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

● ナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話: 042-356-9137 / FAX: 042-356-9185

故障/修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858



0570-000-501

市内通話料でOK ナビダイヤル 一般電話/公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

受付時間は、9:30～17:00です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

● ナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話: 04-2901-1033 / FAX: 04-2901-1036

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Printed in Japan

保証書

品名	dBTech
および	
形名	V10 S31
機番	
保証期間	本体
お買い上げ日	年 月 日
お客様	お名前
	ご住所

この保証書は、ご購入日から左記の期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示し、ティアック修理センターまたはお買上げの販売店へ修理をご依頼ください。

販売店	
電話	()

お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

ティアック修理センター

〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858

電話: 0570-000-501(ナビダイヤル) / 04-2901-1033